

チョウの同定は難しいです。しかし先日先輩の理科の先生からいただいた図鑑が非常に優秀で、私でも同定がずいぶん楽になりました。おかげで、先日城ヶ島の海岸近くで見かけた「シジミチョウ」もほぼ完璧に「種名」までたどりつけました。

「ウラナミシジミ (裏波小灰蝶)」*Lampides boeticus* は、世界中に広く分布する、ぜんぜん珍しくない小型のチョウです。本来は熱帯・亜熱帯に分布していますが、移動力が非常に高く、日本にも夏～秋に飛来し、東日本ではそのまま冬を前に死滅するのが普通だそうです。幼虫はマメ科の植物の葉、花、若い果実などを食べます。翅の裏にしま模様があり、2個の眼状紋の間に突起 (尾状突起) があるのが特徴です。この眼状紋を「眼」に、尾状突起を「触覚」に見立てて、「反転擬態」をとっていると考えられています。

シジミチョウには美しいものが多いので、もっと写真に撮りたいです。一番の「あこがれ」は、まだ標本でしか見たことのない「ミドリシジミ」です。

(2024年10月上旬/神奈川県城ヶ島)

